



国立大学法人北海道国立大学機構

帯広畜産大学の取り組み

令和4年7月 発行

- 国立大学法人北海道国立大学機構の設立
- クラウドファンディング・大学基金による障がい者乗馬施設の整備
- 日本初となる受精卵の遠隔輸送による木曽馬の仔馬が誕生
- カーリング部が全国大会で活躍
- 学生の酒造りプロジェクトによる畜大オリジナル日本酒が完成
- 北海道中小企業家同友会とかち支部との連携による課外教育を実施
- おびひろ動物園にて畜大サテライトブースをPR
- 野生動物の生態系の仕組みを学ぶボードゲームを作成・公開
- ウィスコンシン大学とのオンライン相互交流を実施
- 地域の皆様との対話の場「産学官金連携交流会mini」を開催
- 「畜大アイス」パッケージをリニューアル
- 3年ぶりに開催された関東同窓会に来賓として出席
- 創立80周年を迎えました



国立大学法人北海道国立大学機構
帯広畜産大学

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地
TEL:0155-49-5219 FAX:0155-49-5229
E-mail:kouhou@obihiro.ac.jp



国立大学法人北海道国立大学機構の設立

**北海道国立大学機構は、北海道の三国立大学の連携によって、
北の大地から世界へと続く道を学問の力で切り拓く夢に挑戦します。**

令和4年4月1日、国立大学法人北海道国立大学機構が誕生しました。北海道の広域で、商学、農畜産学、工学分野の特色ある教育研究を展開してきた小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学が三国立大学法人の経営統合という全国初の試みを実現しました。

北海道国立大学機構は三国立大学の教育研究連携をリードして「実学の知の拠点」を形成し、合わせて産学官金連携によって北海道経済・産業の発展と国際社会の繁栄、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

この目標を達成するために、経営努力による財政基盤の強化、三大学の連携による分野融合型の教育研究プロジェクトの創設、ICTを活用した教育研究の高度化、DXの推進による法人運営の効率化と働き方改革を柱とする改革を進めます。

都道府県魅力度ランキング日本一の北海道は、大学生が豊かな学生生活を送り、研究者が世界から集う「知の拠点」にふさわしいエリアであり、大学と地域が連携することで輝かしい未来が開けます。皆様のご指導と温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人
北海道国立大学機構
理事長 長谷山 彰



帯広畜産大学
学長 長澤 秀行

**帯広畜産大学は、知の創造と実践によって実学の学風を発展させ、
「食を支え、くらしを守る」人材の育成を通じて地域及び国際社会に貢献します。**

帯広畜産大学は、1941年(昭和16年)に創立し、「日本の食料基地」として食料の生産から消費まで一貫した環境が揃う北海道十勝において、生命、食料、環境をテーマに「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進してきました。国や地域の農業振興政策を支える重要な研究機関・産業集積地域であるこの最適なフィールドを高度専門職業人育成の場として活用できることは本学最大の強みです。

農業活動によって生み出される食料は、人類の生命維持はもとより健康で充実した生活の根幹を支えるものです。また、あらゆる地球規模課題に農業は深く関わっています。気候変動、大規模災害、新興感染症、国際紛争等の脅威が拡大している現代社会において、「農と食」を取り巻く環境は大きく変化しつつあり、農学分野が解決すべき課題は一層複雑化・多様化しています。

帯広畜産大学は、北海道国立大学機構の一員として、異分野融合の取組を三大学で協力して推進するとともに、社会の変化に対応した教育研究活動を推進して、新たな時代を担う農学系人材を育成します。

クラウドファンディング・大学基金 による障がい者乗馬施設の整備

令和3年10月、本学馬介在活動室に新たな馬係留場(繋ぎ場)が完成しました。

本施設は、クラウドファンディングプロジェクト「ポニーと子どもがふれあい、笑顔があふれる場所を作りたい!」によるご支援や、帯広畜産大学基金の助成、寄附により建設されました。

従前の馬係留場は老朽化が進み、地面の水はけが悪く冬季は地面が凍結するなど、使用に課題がある状況でした。新たに完成した施設では、6頭の馬を繋ぐことができ、排水溝や2台分の障がい者用駐車場も整備されました。

10月13日に完成した馬係留場が公開され、同日には障がい者乗馬体験事業も実施されました。

馬介在活動室では「人と馬の絆プロジェクト」に取り組んでおり、馬を使った教育・研究活動、馬術競技やスポーツ乗馬に加え、様々な障がいを持った方のための乗馬体験、いわゆる「ホースセラピー活動」を行っており、人間と動物が共存できる豊かで潤いのある社会づくりに貢献していきます。



▲完成した馬係留場

日本初となる受精卵の 遠隔輸送による木曽馬の仔馬が誕生

グローバルアグロメディシン研究センター南保泰雄教授の研究室において、日本中央競馬会畜産振興事業の一環として、日本初となる受精卵の遠隔輸送による仔馬(木曽馬)の誕生に成功しました。

国内に存在する日本在来馬は飼養頭数が減少しており、木曽馬は長野県天然記念物に指定されています。南保研究室では、令和3年に木曽馬の受精卵を回収し、鉄路・空路・道路輸送を駆使して、長野県木曽町から北海道の本学まで、10時間をかけて受精卵を室温で遠隔輸送し、同日中に、レシピエント(代理母馬)の北海道和種馬へ新鮮胚移植に成功しました。

令和4年5月29日、遂に1頭の仔馬を出産し、「日本初となる遠隔地での受精卵移植により生産された仔馬」が誕生しました。

受精卵の遠隔輸送移植の提供は、国内の獣医学系大学においても極めて稀で、希少な日本在来馬の保存及び効率的な生産、馬受精卵移植法の普及と定着を目指す本学にとって非常に重要な取り組みです。



▲南保教授と生まれた仔馬(写真右)・
代理母馬(写真左)

カーリング部が全国大会で活躍

令和3年12月3日～12月5日に青森県で行われた第12回全農全日本大学対抗カーリング選手権大会において、全国から男子で7大学、女子で5大学が出場する中、本学のカーリング部の女子が優勝、男子が準優勝という優秀な成績を収めました。

女子は、前年の優勝校である北海道大学と決勝で対戦。前半は相手が有利に試合を進めていましたが、中盤から堅実なプレーで得点を重ね、第5エンドでは試合の流れを変える良いショットを決め、見事に勝利を掴みました。部員は「今回のチームは、この大会のために初めて組んだメンバーだったが、上手に連携を取ることができ、チームワークの良さが勝利に繋がった」と振り返り、「来年の大会でも違ったメンバーになるかもしれないが、また優勝を目指して頑張りたい」と抱負を語りました。

男子は、決勝戦では東京農業大学と対戦しましたが「準決勝の激戦を制して力を出し切ってしまい、調子が出せず負けてしまった」と振り返ります。その準決勝では、予選ラウンドを全勝で勝ち抜いた北見工業大学と対戦し、同点からエキストラエンド(延長戦)で粘りを見せて勝利し、決勝へと進出しました。部員は「今度は積極的な「攻め」のカーリングで優勝を狙いたい」と熱意を燃やしています。

なお、カーリング部は課外活動の成果が特に顕著であり、本学の課外活動の振興に功績があったと認められ、本学の令和3年度学生表彰において表彰されました。



▲試合中の様子



▲優勝・準優勝を喜び
カーリング部の選手たち

学生の酒造りプロジェクトによる 畜大オリジナル日本酒が完成

全国で初めて大学構内に設置された酒造である上川大雪酒造株式会社「碧雲蔵」において、「学生の酒造りプロジェクト」による本学オリジナル日本酒「純米吟醸 碧雲」が令和3年9月に完成しました。

本プロジェクトは、本学学生が碧雲蔵において実際の醸造を現場で学び、自身の研究に生かすことを目的としたもので、同酒蔵の川端慎治総杜氏(本学客員教授)と山根桃華杜氏補佐(本学大学院博士課程に在籍)の指導のもと、学生が仕込みから醸造の工程に携わり、酒造りが進められました。

完成した日本酒は、令和3年10月11日より、帯広畜産大学生生活協同組合にて数量限定で販売されました。また、売上の一部は、本学の教育研究に活用されています。



▲完成した日本酒「碧雲」の公開

北海道中小企業家同友会とかち支部 との連携による課外教育を実施

本学では、北海道中小企業家同友会とかち支部と連携し、十勝の地域産業について理解を深める課外教育事業を実施しています。

十勝の産業について学ぶバスツアー「十勝旅」では、農畜産物の生産から加工までの一連の現場を巡り、学生が農業・企業経営者の取り組みや想いを見聞きすることで、地域産業への理解を深めることを目的としています。令和4年4月には十勝のチーズ工房を巡る「チーズ編」、5月に十勝の牧場を巡る「牛乳編」を実施しました。

また、「経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会」では、十勝の経営者の方々がやっている勉強会に学生が参加し、社会人と同じ目線で学び、交流する機会を提供しています。



▲チーズ工房見学の様子

おびひろ動物園にて 畜大サテライトブースをPR

令和4年4月29日に、長澤学長が、おびひろ動物園畜大サテライトブースのPR活動を行いました。

畜大サテライトブースは、本学とおびひろ動物園が動物園の活性化、本学の教育・研究の向上及び、学術的な視点から魅力的な動物園づくりを推進することを目的に平成25年に設置したもので、動物の骨格標本や、野生動物の巣・食痕等を展示しています。

令和4年度からは「帰ってきた！おびひろ動物園のアイドルたち」と称して、おびひろ動物園で飼育していたキリンの「ユキ」をはじめ、動物たちの頭骨を動物園での生前の様子と共に展示しています。

畜大サテライトブースの前で本学オリジナルグッズを来場者に配布してPR活動を行った長澤学長は、「学生たちにもサテライトブースの活動に積極的に関わってもらえるようにしたい」と語りました。



▲畜大サテライトブース



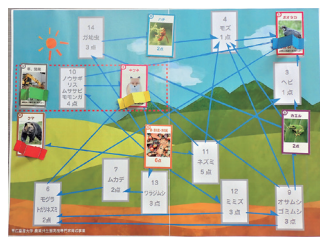
▲長澤学長がブースをPR

野生動物の生態系の仕組みを学ぶ ボードゲームを製作

農業生態系と自然生態系の生存・共栄を目的とした「野生生物保全管理技術養成事業(旧 農業共生圏高度専門教育事業)」の取り組みの一環として、令和3年度に、野生動物と環境教育をテーマにしたオリジナルボードゲーム『食って食われて』を製作しました。

本ゲームは、環境農学研究部門の浅利裕伸准教授が中心となって開発したもので、野生動物の捕食・被食といった生態系の仕組みや、野生動物のロードキル(交通事故)、獣害などについて、ゲームでの遊びを通じて、理解を深めることができる内容となっています。

また、ゲームは本学HPからダウンロードし、印刷することでどなたでも無料で遊ぶことが可能です。



▲プレイ中の様子



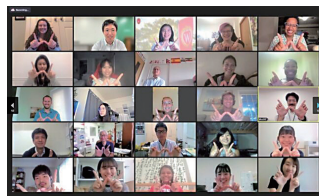
▲「食って食われて」ポスター

ウィスコンシン大学とのオンライン相互交流を実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、外国との往来が難しい中、Web会議システムを利用し、米国のウィスコンシン大学と相互交流を行いました。

ウィスコンシン大学と本学の学生が同じクラスで農学を英語で学ぶサマージョイントプログラムは、2年ぶりに10日間にわたって実施しました。このプログラムは、両大学の教員が連携し、北海道とウィスコンシン州のそれぞれの農畜産業やフードシステムについて学ぶとともに、異文化理解を深めることを目的としています。プログラムには、本学の教員だけでなく、学生も協力し、ウィスコンシン大学の学生のために、日本や北海道の紹介、『畜大生の一日』といった動画を作成し、楽しく臨場感あふれるプログラムになるよう工夫がされました。

また、ウィスコンシン大学の教員によるオンライン講義が、令和3年10月から令和4年2月の間に計5回開催され、本学の学生・教員が参加しました。統計学を応用した効率の良い実験方法を設計するための基礎的な概念の理解と注意点を学ぶことを目的とした、マーレイ・クレイトン教授による『統計学ショートコース』のほか、多くの教員に講義を実施いただき、参加者にとって大変有意義なプログラムとなりました。



▲オンラインビデオシステムでのサマージョイントプログラム



▲ウィスコンシン大学の教員によるオンライン講義の様子

地域の皆様との対話の場 「産学官金連携交流会mini」を開催

大学と企業・生産者・金融機関を含む地域の皆様との交流を促すことにより、地域のニーズを理解した上で大学の研究資源をスムーズに社会へ還元できる仕組みを構築するために、令和3年3月に「帯広畜産大学企業等集積プラットフォーム」が設置されました。本交流会は、その取り組みの一環として、地域の皆様からの要望が高かったテーマに関する意見交換・共創の場づくりを目指して開催しているもので、これまでに「スマート農畜産業編」「未利用農林水産資源編」「北海道における自給粗飼料活用編」「発酵食品「日本酒」編」「牛肉編」の5回を実施しており、共同研究やコンソーシアム形成に繋がるなど地域連携の進展に繋がっています。今後も地域の要望に合わせ、未来の北海道・十勝の目指す姿と課題解決について語り合う場として様々なテーマを取り上げていきます。



▲第1回産学官金連携交流会miniの様子

3年ぶりに開催された 関東同窓会に来賓として出席

令和4年6月18日に東京都内で帯広畜産大学関東同窓会が開催され、長澤学長が来賓として出席しました。

関東同窓会は、関東に在住する本学の卒業生・修了生で構成される同窓会で、新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間の開催を見合わせておりましたが、3年ぶりの開催となり、50名の同窓生が集まりました。

懇親会では、学長として7年ぶりに出席した長澤学長から本学の近況について報告するとともに、参加者は3年ぶりの旧友との再会を喜び合い、同窓の絆を深めました。



▲長澤学長による懇親会での挨拶

「畜大アイス」パッケージを リニューアル

畜産フィールド科学センターの乳製品工場で製造している畜大アイスクリームのパッケージデザインをリニューアルしました。新デザインは、総合研究棟I号館や白いリスのイラストが描かれた、帯広畜産大学らしさを表現したものとなっています。

この新たなデザインは、本学学生及び教職員から募集し、畜産科学課程食品科学ユニット3年(当時)の笹山航弥さんのデザインが採用されました。

新デザイン考案者の笹山さんには、畜産フィールド科学センターの小池センター長より、副賞の畜大アイスクリーム100個の目録が贈呈されました。

なお、畜大アイスクリームは、令和4年5月に北海道HACCP(ハサップ)の認証を取得しております。



▲新デザイン考案者の笹山さん(写真右)



▲新パッケージの畜大アイスクリーム

創立80周年を迎えました



▲創立80周年記念誌

1941年(昭和16年)に帯広高等獣医学校が創立されてから2021年(令和3年)で創立80周年を迎えることができました。本学の伝統と発展を支えてこられた諸先輩方をはじめ、地域の皆さま、関係者の皆さまのご助力ご支援に心から感謝申し上げます。

創立当初の苦労はもちろんですが、その後も時代の変化に伴う社会の要請や数々の課題に対応しながら、今日の本学があります。この創立80周年を、次に向けた飛躍の大きな節目と捉え更なるステージを目指します。